

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800046		
法人名	社会福祉法人 端山園		
事業所名	グループホームいまくまの 2F		
所在地	京都市東山区今熊野北日吉町61-10		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2690800046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひとまち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和6年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設している小規模多機能事業所との一貫した利用を通じて、住み慣れた地域で生活し続けることの担い手として、地域に貢献することができています。昨年は、ズームを通じて、地域住民の方々のラジオ体操だけでなく、児童館の子供たちと交流する機会を設けていましたが、今年度は、地域行事(運動会・ふくしまつり)に参加させて頂きました。ご利用者の方々に作成して頂いた手縫いの雑巾を今年も児童館・障害者福祉施設・支援学校・災害地など、複数の団体へ寄付活動を行っています。小規模多機能事業所と一緒に、ご利用者が作成された貼り絵の作品を出品展に応募し、さらに近隣のカフェにも飾らして頂き、たくさんの方々に披露させて頂くこともできました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3Fに同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰でも目にすることができるよう玄関口に記載したものをかけている また、理念をもとに各フロアの目標を作り、会議の議事録に理念と共にのせて意識付けし、毎月の会議にて目標の達成状況を確認出来ている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	京都女子大学からクリスマスコンサートのDVDを頂き、鑑賞会を開催する。毎月、ご利用者と一緒に作成した創作作品を地域のカフェ等に展示して頂いている。豊国廟に散歩に行かれた時には地域の方やお参りの方と挨拶されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も児童館・障害者福祉施設・支援学校・被災地などにご利用者に作成して頂いた雑巾を寄付しました。毎月、ご利用者と一緒に作成した創作作品を地域のカフェ等に展示して頂いている。管理者が東山区の運営協議会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方や運営推進会議のメンバーに施設の防災訓練に参加して頂いている。また折り紙の寄付。併設する小規模多機能事業所の訪問先の駐輪スペースの確保。外部研修の案内もあり。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	東山区健康長寿推進課と連携を取り、作成している雑巾の材料となる布を理美容の団体から寄付して頂きました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故苦情身体拘束虐待防止委員会の議事録に身体拘束について記載しており、毎月目にふれるようにしている。フロア会議でも、日々の何気ない声掛けや介助の中で拘束に当たらないか話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で行う研修以外にも、施設外の研修の参加やズームを使った研修に参加している。毎月、委員会を開催し、委員会メンバーを中心に、虐待行為がないか確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修で学ぶ機会はあるが、入居前に後見制度を利用されているケースがほとんどで、実際には携わっていない。小規模多機能事業所では制度の申請に関わる必要な事項に関わり、申請の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居事前に重要事項説明書及び契約書を説明し、同意を得ている。また改定の際も、その都度説明を行い、了承して頂いている。疑問や質問等ある時は連絡頂くようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前年度と同様に、来所時や運営推進会議議事録同封の意見書にて要望等は聞いている。頂いた意見は運営推進会議で報告し、反映できるよう努めている。また、定期的に連絡し、ご家族からご意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や定期定例ヒヤリングで意見を聞く場を設けている。運営に関する意見については委員会や会議で検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を継続して取り組み、達成状況や今後の課題等についての話をしている。介護休暇や通常の勤務が負担にならないようにシフト管理等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づいて法人内外の研修に参加している。職員主催の勉強会や各委員会にて研修を開催している。外部研修は掲示板で紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との合同の統一研修へ年間を通じて参加している。管理者は第三者評価委員に従事し、いしだたみの会・東山区事業所連絡会・東山区運営協議会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に不安や心配事を聞き、要望等についてはどのように対応させていただくか説明している。その都度話を伺い、関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記項目同様、面接時に家族の気持ちや要望を聞き、どのように対応させていただくか具体的に伝えている。入居後も毎日の暮らしの様子を報告し、ご意見伺い対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には、訪問歯科等の他サービスの利用がお試しも含め可能であることを提案している。外出支援において、地域ボランティアを活用したケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で、散歩の同行や新聞を一緒にみて世間で起こっていることを共有したり、肩もみのスキンシップなど共に過ごす時間を大切にしている。誕生日や季節行事をご利用者と一緒に楽しませてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やLINE等を利用しながら話しやすい環境を作っている。 ご家族には居室環境を一緒に考えて頂いたり、差し入れや受診対応の協力で役割を担って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住まわれていた所へドライブしたり、馴染みの理髪店を利用頂いた。一部のご利用者はご入居前のご近所付き合いが継続出来ておられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士がお互いに顔が見えるように座席を配置し、お互いに挨拶ができるようにしている。季節折々の行事や誕生日をご利用者同士で祝い楽しむ機会を催している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、寄付をいただく時があり、思い出話や相談事を伺い、関係性を継続している。今年度は地域にお住いのご家族が事業所避難訓練に参加くださった。またあるご家族は、近所に来られた際に立ち寄ってくださった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前年度と同様に、本人の思いの把握に努め、毎日のカンファレンスで情報共有しプランに反映させている。声に出せない方は、今までの暮らしを参考にご家族から聞き取っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好きな食べ物を伺い、食事時に食べて頂けるように準備している。思い出の品、趣味で作られた作品等を把握し、居室等に飾ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のカンファレンス等でご利用者の状況等を共有し、一日の過ごし方について話し合いを行っている。新聞やラジオなどの習慣や日課を続けて頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前年度と同様に、毎日のカンファレンスや定期的な会議でモニタリングを行い、医療関係の情報提供も合わせ、反映させている。また今年度は各スタッフにご利用者の担当を決め、担当スタッフを中心にチームで話し合いを行った。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を含めて、個別に記録し、共有している。申し送り等で情報の確認や意見交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は花火大会に合わせての一時帰宅を希望されるご家族へアドバイスなどの対応を行った。様々なニーズに合わせてできる限りの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域有償ボランティアを活用し、外出支援を行った。地域の障害者福祉施設や支援学校等にご利用者に作成して頂いた雑巾を寄付している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の診療所・訪問歯科・訪問看護ステーションと連携し、病状の安定に努めている。職員は歯科衛生士から月に1回口腔ケアの研修を受講している。専門科への受診はご家族に同行して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて健康チェックを行い、療養上のアドバイスを頂いている。訪問、診療所と連携を通じて、夜間の急変時の対応も行えてる。また小規模スタッフの看護師にも適宜手当等の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーや担当看護師・医師と情報共有し、退院時にはカンファレンスにて施設での生活が送れるよう必要なりハビリも相談できている。今年度は該当利用者はなし。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針をご家族に説明を行っている。終末期には診療所と訪問看護師と連携し、ご家族の意向を確認し、看取り指針を改めて説明し、ご家族に同意を得て、看取り支援を行っている。寝具を準備しており、ご希望がある際は夜も一緒に過ごして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成し備えている。また委員会活動を通して、感染症についても様々なシュミレーションを行った。消防署によるAED講習会は毎年継続し、高齢者特有の様々な急変時について勉強会を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉避難所に指定されており、3日分の食料品などの備蓄品を備えている。災害対策マニュアル及びBCPを作成し、火災訓練及び土砂災害の訓練を行っている。東山区の防災担当の方に災害時の指示を受けている。同法人で災害時の炊き出し訓練を行えた。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で学んだことを、実際のケア場面に置き換えて振り返っている。特に咄嗟に出てしまう言葉は、皆で話し合っている。申し送りでは実名を出さず工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	テレビ番組や飲み物のご希望を伺っている。レクリエーションや誕生日はご希望に沿った内容を企画している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	映画や歌謡ショーなどを楽しみにしておられる方には就寝時間を強要せず、観て頂いている。可能な限り一人ひとりのペースに合わせ、朝が苦手な方はゆっくりと起床され、軽めの食事を用意している。余暇活動のお誘いは無理強いせず行えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	フロアや居室は温度調節していることもあり、季節に合わせた衣装をご自身で選ばれることは難しいが、外出時は楽しく衣装選んでおられる。男性の髭剃り、女性はスカーフなどでおしゃれを楽しむ機会をもって頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ前は食事の準備で小鉢の盛り付けを職員と行っていたが、現在は可能な範囲で台ふきや食後の食器をお盆にのせてもらう等を手伝って頂いている。おやつレクで衛生面に配慮し、個々にデコレーションをして楽しんで頂けた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表やかかわりファイルで日々の摂取量が確認でき、摂取量が少ない時などは、好きなものの差し入れをご家族に協力頂いて食欲アップに繋げている。また嚥下機能の状態にあわせて、食事形態を変更している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいの難しい方には食後にお茶やゼリー等で口腔内の残渣を流すように工夫している。かかりつけ歯科医院の協力のもと、ジェルや歯ブラシ、口腔用スポンジを使用しその方に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えをされない方は排泄表で排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導等を行っている。未排便が続くときは、トイレ前に歩行してもらったり、安全に長く座っていただける環境を整えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用以外にも、水分補給・乳製品の活用・腹部マッサージや散歩や体操を行い、排泄を促している。一部ご利用者はオリゴ糖で下剤の必要がなくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調の良い時を考慮して入浴のお誘いを行っている。ご本人の外出などの予定にも合わせ調整している。 入浴が億劫な方にはできるかぎり同性介助に努め、気持ちよく入っていただけるよう工夫している。ご希望の方には足浴も実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や湿度、室温管理に気を付け、寝つきがよい方へはアロマを利用し気持ちを落ち着かせるように環境を整えたり、抱き枕を利用している。眠れず起きて来られた時は温かい飲み物を提供し話を聞いたり、ソファでゆっくりしてもらう事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルに綴じ、何の薬を飲まれているか、また副作用についても確認できるようにしている。 新たな薬処方時は、利用者の変化など観察に努め、職員は申し送りやカンファレンスで情報共有している。変化ある時は往診時に限らず主治医にFAXで伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、洗濯物畳み、肩揉みなどその方にあった役割を担っていただいている。 ご家族の差し入れで好物を召し上がられたり、季節行事で楽しんで頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で、豊国廟への散歩を継続して行えている。コロナ感染状況の様子を見ながら、家族との外出や一時帰宅も実現し、あるご利用者は自宅から花火大会を見ることができた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者はお金を所持され、散歩へ行かれた時に自動販売機で缶コーヒーを購入されている。コロナ以前は日用品を地元商店街に買い物に出かけていたが、現在は職員が代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とLINEを利用してのビデオ電話を日常的に行えている。ご友人や以前お住いになられていたご近所さんからの手紙が届いた時は代わりに読み上げ、ご家族にもその様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではピアノやオルゴールの音楽を流し、心地よく過ごせるようにしている。また、細目に休息できるようリビングソファの位置を工夫している。日常業務の中、行き届かなかった掃除を行えるようシフトを工夫し、衛生面でも気を配った。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の利用者同士の相性や様子を見て、リビングの席の変更し楽しく過ごしてもらえよう工夫している。 一人で過ごしたい時は玄関前のソファを活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族と相談し、使われていた物や居室の広さにあった家具を用意して頂いている。ベッドや家具は本人の状態に合わせて配置を見直し、その際には遠方の家族にもLINEで配置の様子がわかる写真を送り、一緒に考えていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やフロアのお好きな場所で過ごしていただくようにしている。ラジオを聴いたり、家族アルバムを見たり思い思いに過ごされている。共用のトイレなどは迷われないよう目印を付けている。		